



第7回次世代スマートメーター制度検討会 フォローアップ項目に対するご報告

北海道電力ネットワーク
2021年12月17日



将来の電気事業のイメージ



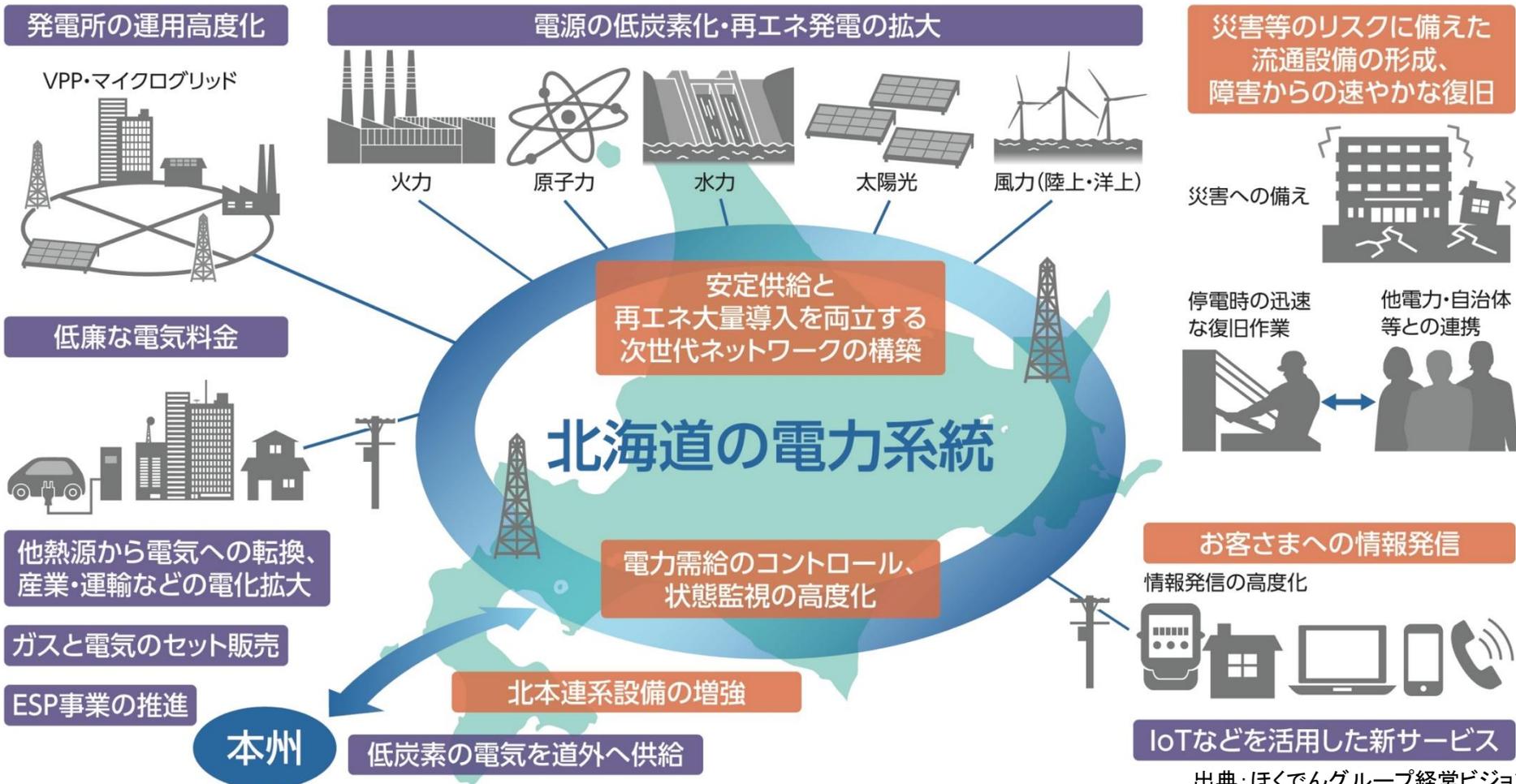
将来の北海道の電気事業

安定供給の確保のみならず、環境性や利便性を向上させた新時代の電気事業を展開していきます。

【将来の電気事業のイメージ】

凡例： 小売・発電部門の取り組み

ほくでんネットワークの取り組み

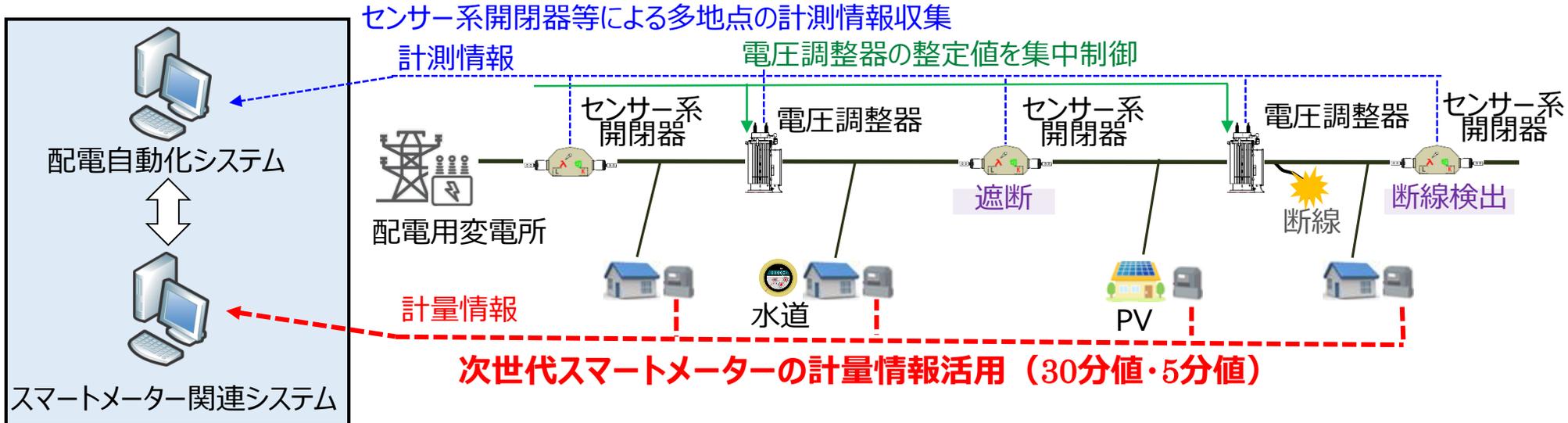


出典：ほくでんグループ経営ビジョン2030

次世代スマートメーターの活用構想



分散型電源(再エネ)の導入拡大、レジリエンス強化や、社会的ニーズへの取り組み拡大に向けて、次世代スマートメーターを活用した次世代型配電ネットワークを構築する。



○配電系統の見える化

・「センサー系開閉器の計測情報」や「次世代スマートメーターの計量情報」を活用した配電系統の見える化

○データ活用

・「次世代スマートメーター」や「スマートメーターネットワーク」を通じた多様なデータ活用の推進

分散型電源(再エネ)の導入拡大

- ・潮流・電圧分布等の精緻な把握・活用による連系検討の高度化
- ・集中制御による電圧調整の高度化

レジリエンス強化

- ・断線・停電検知、事故探査の効率化
- ・中間遮断による停電範囲縮小

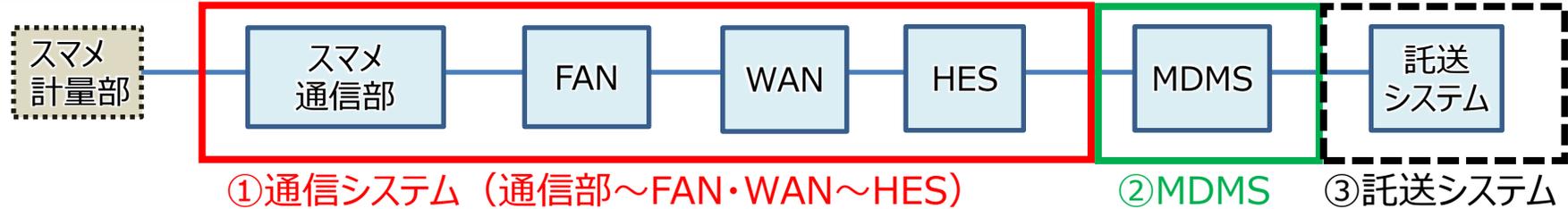
社会的ニーズへの取り組み拡大

- ・配電事業者やアグリゲーター等への電力データ提供
- ・水道メーター等の共同検針データの取得

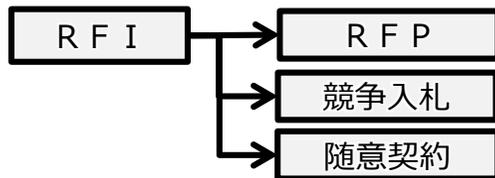
RFIの目的

- ・次世代システム開発に向け、新たな通信技術などの情報を幅広く収集するとともに、概算費用を算出する。
- ・情報提供依頼に対する各ベンダーからの回答を精査し、その結果をもって公平、公正に調達方法を選定する。

範囲



調達手順



- ・調達手順：RFIにより情報提供を依頼し、RFIの結果により調達方法を選定する。
- ・①通信システム、②MDMSでそれぞれRFIを実施する。
- ・③託送システムはシステム化要件が未確定のためRFIの実施は検討中。

評価軸（評価を行う上で重視するポイント）

- 「実現性」…次世代に求める要件（5分値、共同検針、特定計量等）を満たしているか。
現行のサービスレベルを維持したマイグレーション（既存スマメと次世代スマメの共存）が可能か。
- 「柔軟性・拡張性」…将来的に新たな通信技術や機能拡張に対応できる形態となっているか。
- 「経済性」…実現方法に対する費用に妥当性があるか。

開発スケジュール

